

令和 3 年度大分県防災活動推進交流会

日 時： 令和 4 年 3 月 21 日（月・祝）

場 所： J:COM ホルトホール大分 小ホール

大 分 県

令和3年度大分県防災活動推進交流会

開催趣旨

本交流会は、防災士や自主防災組織等が実施している防災活動や活動にあたっての課題等を共有するとともに、防災士相互、また、自治会・町内会関係者との連携強化を図ることにより、地域防災活動の活性化につなげることを目的に開催するものです。

大分県では、市町村と連携して防災士の養成に取り組み、養成者数は1万人を超えており、防災士は平時から地域住民への防災啓発や避難訓練の実施に貢献いただいています。

また、災害時における住民の早期避難においても、自助・共助の要である防災士の役割は重要です。九州北部豪雨では、防災士の資格を有した自主防災組織のリーダーが中心となり、的確な避難誘導を実施しました。防災士の皆さんには、地域の防災力向上のため、自治会や町内会での防災活動の要として活躍いただくことが期待されています。

本日は、防災の専門家や実践者から地域防災活動における課題の解決や取組の発展に資する知見をいただくとともに、参加者相互の連携が一層図られ、地域の防災力向上、ひいては本県の防災力がさらに高まることを願います。

開催概要

1 開催日時及び場所

- ・令和4年3月21日(月・祝) 13:00～
- ・J:COM ホルトホール大分 小ホール

2 テーマ

- ・地域における防災士のあり方を考える。

3 対象

- ・県内の防災士、自治会・自主防災組織関係者 等

【タイムスケジュール】

司会者 河野 真歩 大分放送アナウンサー

12:30 受付

13:00 開会

13:05 主催者挨拶(5分)

13:10 ①基調講演(55分)

- ・兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 科長(教授) 室崎 益輝氏
地域防災(自主防災組織・地区防災計画等)専門/日本防災士会理事長
地区防災計画学会会長
防災士教本執筆者

題目 ～ 地域の個別的な減災力向上をめざして ～

14:05 休憩(10分)

14:15 ②防災活動の取り組み事例発表(45分)

- ・津久見市徳浦地区自主防災会 織田 敦任氏
- ・杵築市防災士協議会 防災士リーダー 辻生 幸氏
- ・大分市竹中校区防災士連絡協議会 会長 一水 勝徳氏

15:00 ③県事業紹介(5分)

- ・防災アプリ、おおいマイ・タイムライン 等

15:05 休憩(5分)

15:10 ④交流会(意見交換)(60分)

形式:シンポジウム

テーマ:地域における防災士のあり方を考える

【登壇者】

コーディネーター:関西大学社会安全学部 教授 山崎 栄一氏

コメンテーター :兵庫県立大学大学院 教授 室崎 益輝氏

パネリスト :気象予報士・防災アドバイザー 花宮 廣務氏
大分大学減災・復興デザイン教育研究センター
防災コーディネーター 板井 幸則氏
織田 敦任氏、辻生 幸氏、一水 勝徳氏

16:10 閉会挨拶

16:15 終了



室崎 益輝

大学教授・日本防災士会会長・地区防災計画学会会長

昭和 19 年 兵庫県生まれ

昭和 42 年 京都大学工学部建築学科卒

同大学大学院工学研究科修士課程修了

神戸大学都市安全研究センター教授

独立行政法人消防研究所理事長

関西学院大学災害復興制度研究所長

神戸大学名誉教授

兵庫県立大学防災教育研究センター長

兵庫県立大学減災復興政策研究科長

日本火災学会会長

日本復興学会会長

地区防災計画学会会長

消防審議会会長

防災功労者内閣総理大臣表彰

第 70 回 N H K 放送文化賞

日本火災学会賞、日本建築学会賞

兵庫県社会賞など

著書/地域計画と防火、危険都市の

証言、建築防災・安全など

基調講演/コメンテーター

災害が多様化し激甚化し頻発化し、被害が肥大化し多様化する時代を迎えている。この災害の時代において、その災害の破壊に立ち向かい、被害の拡散を抑えるために、地域の防災力の強化をはかることが求められている。

災害の多様化は公衆衛生的な備えの強化を、災害の激甚化や被害の肥大化は連携協働的な備えの強化を求めている。また、被害の多様化は個別対応的な備えの強化を求めている。

個別避難計画やケースマネジメントが強調されるのは、まさに災害対応の個別性を大切にしようとする思いゆえのことである。その個別性を大切にするのは、地域の防災活動でも同じである。地域の個別性を大切にする取り組みとして、ボトムアップ型の地区防災計画が全国に広がりつつある。

ところで、個別的な対応をはかるためには専門的な技量が欠かせない。ケースマネジメントでもそうであるように、地区防災計画においても、水の人としての防災士の果たすべき役割は大きい。

室崎 益輝



山崎 栄一

関西大学社会安全学部 教授 博士（情報学）
憲法・行政法・災害法制を専攻

昭和 46 年 大阪府生まれ
神戸大学大学院法学研究科公法専
攻博士後期課程
京都大学博士（情報学）

大分大学教育福祉科学部准教授を
経て現職
著書：自然災害と被災者支援 他

大分県地震被害想定調査検討委員
会委員
大分県防災教育推進委員会委員長
兵庫県災害時要援護者支援対策検
討委員会委員
大分県女性の視点による防災指針作
成検討会議アドバイザー

大分大学在職中に学生の防災士養
成研修を企画する。県下の防災士の
スキルアップ研修講師を務める。
大分県の防災対策の状況をよく知る
法学者

コーディネーター

私は、この交流会の中でパネリストの皆様と、大分県民が直面して
いる様々な災害をめぐる課題を共有しながら、大分の防災士のあり方
と、これから求められる活動について探りたいと思います。

ご存知のように、防災・減災活動は、その裾野は広く、活動も多岐
にわたります。防災士も家族の一員、職場の一員、災害支援の一員
といった様々な顔をもちながら、防災・減災活動に取り組んでいるわけ
で、防災士のあり方というのは無限の可能性を秘めていると言えま
す。

本日、それら山積する防災上の課題の中から、とりわけ顕著な課題
の抽出を通して、防災士と自主防災組織や自治会関係者の皆様と
一緒に、現下における防災士のあり方を考えていただき、地域の中で
効果的な活動に繋げて頂ければ幸いです。

山崎 栄一



花宮 廣務

気象予報士・大分県防災アドバイザー・環境教育アドバイザー

昭和 23 年 湯布院町生まれ
昭和 42 年 大分地方気象台入庁
約 40 年間九州各地の気象台で勤務、名瀬（奄美）測候所長、大分地方気象台長等を歴任

平成 20 年 3 月 定年退官
退官後、気象台生活で学んだ経験・知識を社会に還元するために、県内各地の自治会や生涯学習教室、自治体が主催する研修会等で防災・温暖化防止等の出前講話を実施。

平成 20 年 5 月～
朝日新聞大分版にコラムを執筆中
「災害は忘れる暇なくやってくる」をテーマに防災・減災や地球温暖化にともなう異常気象への警鐘を鳴らしている

パネリスト

1 月 22 日午前 1 時 8 分、大きな揺れに「南海地震が来たか？」と頭の中が真っ白になりました。

「震源は日向灘、最大震度 5 強」の情報に少し落ち着きました。

揺れが収まると、私の住む団地の各家庭に明りがとまり、しばらくすると、明りが次々に消えていく様子に異状がないことを知り、安堵しました。

近い将来、南海地震の発生が懸念されているにもかかわらず、多くの県民にとっては、地震や津波は「ひとごと」。

そのような県民にとって今回の地震による液状化、水道管破裂、食器棚からの食器散乱などの出来事は「ひとごと」でないと、地震への備えを再確認するきっかけとなったことでしょう。

災害は地震だけではありません。温暖化にともない頻発・激甚化する風水害など「災害は忘れる暇なく」やって来ます。災害への備え、発災後の対応は、行政による「公助」だけでは対応できません。

「自分の住む町は、自分たちで守る」そのためには、地域の人・地形などを熟知している防災士の皆さんが中心となり、できることから「共助」の輪を広げ、地域防災力をはぐくむと同時に、「自助」の意識の醸成のため、行政からの情報などを、わかりやすい言葉で解説・啓発をしていただきたいと思います。

花宮 廣務



板井 幸則

大分大学減災・復興デザイン教育研究センター防災コーディネーター

昭和 59 年 臼杵市消防本部に入署
消防・救急・救助と現場活動に従事
平成 7 年 救急救命士試験合格

平成 23 年 3 月 14 日～22 日
東日本大震災の発生に伴い大分県
緊急消防援助隊（臼杵隊隊長）とし
て、釜石市鶴住居地区において人命
救助活動を行う

平成 24 年 4 月
臼杵市総務部に出向
防災危機管理室（危機管理監兼室
長）として防災士養成に携わる

平成 29 年 4 月
臼杵市消防本部（消防長）
平成 30 年 4 月～
大分大学減災・復興デザイン教育研
究センター（現職）
大分県防災教育推進委員
大分県学校防災アドバイザー
大分県ボランティアネットワーク委員

パネリスト

東日本大震災の発災当時、私は、大分県緊急消防援助隊（臼杵隊隊長）の一員とし、岩手県釜石市鶴住居町で人命救助活動を行いました。人口 3, 700 人の町は、津波により一瞬のうちに瓦礫の山となっていました。雪が降る中の活動は、瓦礫の中を這いずり回り、余震の連続でいつ壊れるか解らない住宅での人命捜索など、過酷な状況下での捜索活動でした。

私は、津波災害の恐さを被災地で経験した者として、災害から命を守るには「防災教育」しかないと感じました。なぜなら、釜石市は東日本大震災の 6 年前から、当時、群馬大学の片田敏孝教授が中心となり子供たちに「津波てんでんこ」を防災教育に取り入れ、自分達の判断で行動し「自分の命は自分で守る」ことを教育していたからこそ、震災当日に、犠牲者を出すことなく「釜石の奇跡」に繋がることができました。

大分県でも、今後 30 年以内に 70%以上の確率で南海トラフ地震・津波が襲ってくると言われています。そのため、地域を減災に導くため「自助」「共助」「協働」の基本理念で活動する防災士の養成に力を入れています。私もこれまで多くの防災士の養成やスキルアップ研修など、様々な防災活動を支援して来ましたが、これらの防災活動で感じたことは、地域において防災士相互が「顔の見える関係」を構築することで、地域を減災に導く大きな役割を果たすと感じています。

板井 幸則



織田 敦任

津久見市徳浦区区長
防災士

津久見市生まれ
平成 24 年 徳浦区区長

平成 28 年 熊本地震で災害ボランティア活動（南阿蘇 4 回）
平成 29 年 防災士資格 取得

平成 29 年 台風 18 号で地区が被災した際、徳浦公民館を拠点に地区内の復旧作業を行う

平成 30 年 東北被災地視察研修に津久見市から参加

令和元年 8 月豪雨で武雄市に災害ボランティア活動

令和 2 年 7 月豪雨で九重町に災害ボランティア活動

活動事例発表者/パネリスト

平成 29 年の台風 18 号では、地区を流れる徳浦川が氾濫して、浸水被害が発生しました。

当初は市役所へ泥出しを依頼する予定でしたが、市役所の建物も被害を受けたこともあって、地区民に声掛けして、公民館に災害ボランティアセンターのサテライトを立ち上げて運営にあたりました。

主に、女性にスタッフとして協力してもらい、市外からのボランティアに対して、被災者宅へ案内したり、食事の提供や荷物を預かるなどの活動を致しました。ボランティア受け入れのニーズ調査も同時に行い、市の災害ボランティアセンターへ事前に連絡するなどした結果、復旧活動が迅速に実施できました。

このような取り組みができた背景には、熊本地震のボランティア活動の際に案内の無い不便さを感じた経験があったからだと思います。

現在、想定される南海トラフ地震の津波対策として、地区内に 9 か所の避難場所を指定し、そのうち 6 か所に避難小屋を作っています。

また、民生委員の力を借りながら要支援者全員の調査を済ませ、避難行動要支援者の避難支援体制も構築しています。

今後、災害関連死を出さないように、近隣の公民館や事業所の協力を得ながら、安心して避難生活ができる環境を整備していこうと考えています。

織田 敦任



辻生 幸

杵築市防災士協議会 防災士リーダー
民生児童委員（主任児童委員）

大阪府茨木市生まれ
平成 7 年 杵築市光明寺副住職
（現住職）に嫁ぐ
奈狩江地区住民自治協議会地域
資源部副部長
杵築市灘手区副区長
民生児童委員（主任児童委員）
福祉委員
児童クラブ支援員

活動事例発表者/パネリスト

私は阪神・淡路大震災を体験しました。当時、居住していた 7 階建てマンション最上階で被災。今でもあの大きな揺れが忘れられません。

後日、1 階はほとんど揺れていないと聞き、同じマンションでも階によっては揺れ方が大きく違うことに驚きました。

嫁ぎ先のお寺は海岸の近くに立地しています。海拔も低い為、災害が発生したらどうするかは、いつも考えています。

現在、杵築市奈狩江地区住民自治協議会地域資源部に所属しており、地域にある資源（歴史遺産、環境など）を地域で守り、継承していくことを目的に活動しています。

また「人も地域の大切な資源」という観点から防災の取り組みを行っています。

その中で、「地域の宝」である子供たちを守りたいという想いから、2 つの小学校と幼稚園に、非常持ち出し袋の贈呈を毎年行うことにしました。

それをきっかけに、各児童クラブに手作りの防災頭巾をプレゼントすることとなり、更に防災士との交流が続くようになりました。

今年に入り、他地区の児童クラブにも、防災士と子供たちとの交流が広がり始めました。

今後は、地域の女性防災士とも連携しながら、子供の防災意識を向上させる活動を広げ、杵築市の防災を発展させる為のお手伝いができればと思っています。

辻生 幸



一水 勝徳

防災士・大分市竹中校区防災士協議会会長
NPO 大分県防災活動支援センター常務理事

昭和 20 年 大分市中竹中に生まれる
平成 17 年 防災士資格取得
NPO 大分県防災活動支援センター
の設立に参加、防災講話の活動

平成 25 年 竹中校区自主防災会
設立、同副会長に就任
NPO 大分県防災活動支援センター
の事務局次長として 5 年間防災士
養成研修を担当

平成 26 年～28 年
豊後高田市にて市内 60 自治区の
住民による防災マップ作成事業

平成 28 年 大分市 45 校区にて避
難行動要支援者に対する個別支援
計画説明会の講師

平成 29 年 竹中校区防災士協議
会設立、同会長に就任し、令和元年
より竹中校区 9 自治会で防災研修
(D I G) 実施

活動事例発表者/パネリスト

私の住む大分市中竹中は「南こうせつ」の出生地でもあります。子供のころは近所の悪ガキ同士でよく遊んだものでした。そんな竹中にも災害の歴史があります。昭和 16 年の台風 25 号による河原内川鉄橋崩壊で列車が川に転落し 44 人の犠牲者が出たそうです。

そういった身近で起きた災害の伝承が、私の中で防災士の活動を通して「災害から地域を守りたい」という想いになっています。

平成 17 年に防災士になり、その活動として中竹中地区で大分大学（当時）の山崎先生をお招きして D I G に取り組んだことから、地域の方々も災害対策に関心が高まり、以後の活動がやり易くなりました。

平成 26 年、大雪により集落が孤立して、3 日間に亘り安否確認が出来ない事態が発生したことに危機感を覚え、自主防災会の活動を充実せねばと思うようになりました。

この身近で起きた災害をきっかけに、竹中校区の防災士の組織化を進め、誕生した防災士協議会を中心にして、福祉施設や自治会との連携を図りながら地域コミュニティの安全・安心を担う役割を果たしていきたいと考えています。

一水 勝徳

メモ欄